

天下茶屋駅前まちづくり方針【概要版】

1 天下茶屋駅前まちづくり方針の位置づけ

■まちづくり方針策定の目的

西成特区構想の終局的な目標である「まちの活性化・イメージアップ」「子育て世帯の流入促進」に向け、まちの玄関口である天下茶屋駅の周辺を安全・安心に長く住み続けられるまちの「核」とするため、魅力向上をめざす戦略的な取組に向けた方向性などを取りまとめる。

■まちづくり方針の位置づけ

「天下茶屋駅前まちづくり方針」は、西成特区構想に基づく各種施策の実施方針のうち、駅前市有地の活用にあたり、天下茶屋駅前のまちづくりにフォーカスした基本指針。

まちづくり方針の検討対象範囲＝駅前区域▶



3 天下茶屋駅前がめざすまちの姿

■駅前まちづくりの方針

「駅前まちづくり方針」
西成の新たなまちのイメージを「天下茶屋が先取り」
 ⇒天下茶屋から発信し、周辺へ効果を波及させ、若者、子育て世帯の増加をめざす

「西成の新たなまちのイメージ」
安全で安心な子育て・教育環境と、文化(音楽・スポーツなど)に触れることができる、来たい、住みたい、子育てしたい憧れのまち

西成の新たなまちのイメージの実現に向けた取組テーマ

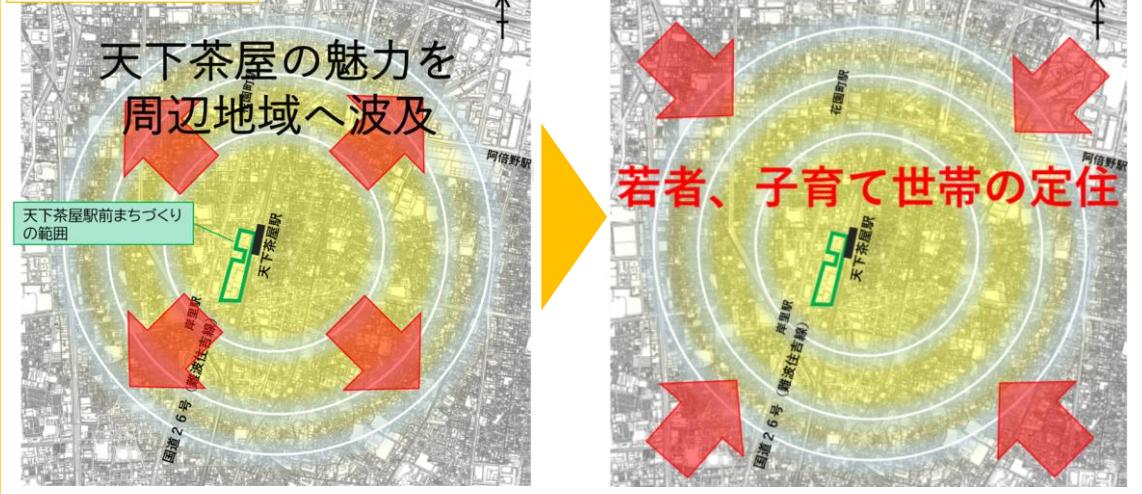
2 天下茶屋駅前及び周辺の現状・駅前まちづくりの方向性

主なもの	現状
西成区の人口動向	<ul style="list-style-type: none"> 20歳前半半の人口増加が見受けられるものの、子育て世代の転出が多い傾向。 外国人は、20～24歳が増加。
駅周辺の主な都市機能立地状況	<ul style="list-style-type: none"> 一定の生活利便施設が整い、また交通利便性が高い。 区民センターや図書館、大阪フィルハーモニー交響楽団の本拠地やスポーツ施設といったまちを訪れるきっかけとなる施設が立地。
西成区のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> 強みは「交通利便性の高さ」と「家賃・土地の安さ」「飲食店の充実」のイメージが強いこと。 弱みは「文化施設の充実」「治安の良さ」「子育てしやすさ」のイメージが薄いこと。

まちづくりの方向性 (まとめ)

西成区のネガティブイメージを覆すため、駅前にふさわしい高度利用を図り、魅力的な機能を集積するなど、天下茶屋の魅力をもさらに高め、周辺地域に波及させることで、若者や子育て世帯の定住を促進する。

波及イメージ



取組テーマ1: 子育て・教育

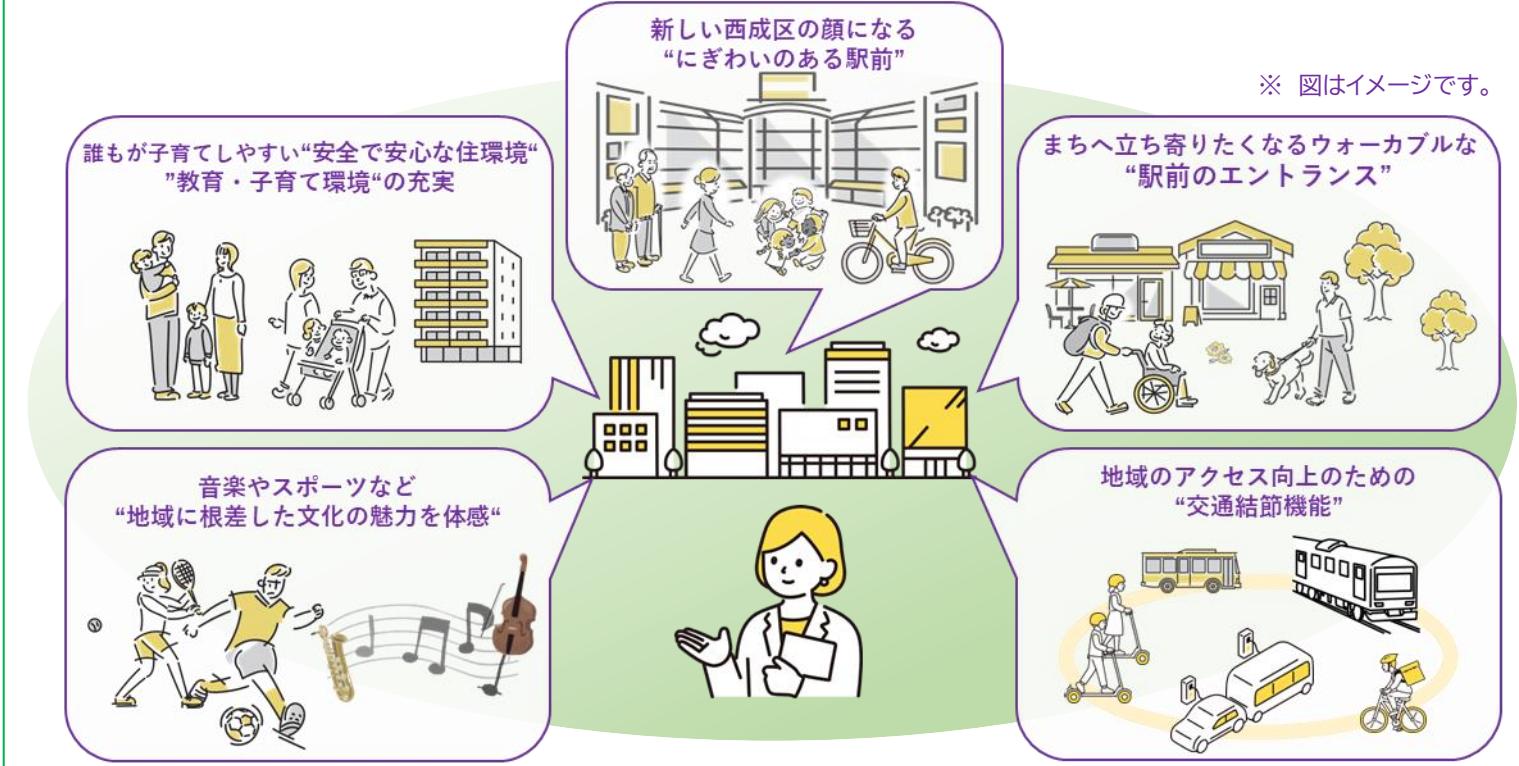
- ◆ 子育て・教育しやすいまちとして、ライフステージが変わっても住み続けたいと思えるような多文化共生にも対応したまちの実現。
- ◆ 地域の文化を活かした教育を取り込み、特色のある駅前を創造。
- ◆ 忙しい現役世代の共働きや余暇をサポートする生活利便機能の充実。

取組テーマ2: 文化(音楽・スポーツなど)

- ◆ 地域に根付いた文化である音楽やスポーツをより発展的に活用するなど、まちの魅力を高めることで、さらなる来街者の目的地となり、新たな交流やにぎわいを誘引。
- ◆ あわせて、来街者を迎え入れるための、人を引き付け、西成の新たなイメージを印象付ける景観形成。

取組テーマ3: 安全・安心

- ◆ 駅前区域に、回遊性が高く、車両との接触機会のない安全な歩行者空間を創出することを目的とした都市基盤の強化や、人と人の関わり合いがあり、よりきれいで安心して過ごせる空間づくり。
- ◆ 周辺地域から複合機能が集積した駅前区域へのアクセス利便性向上や広場空間を備えた交通結節機能の導入。



※ 図はイメージです。